

NHKスペシャル

東日本大震災関連の番組

3月3日(日) 午後9:00~9:49

『“黒い波”～震災8年 明らかになる巨大津波の実像～』

東日本大震災は、膨大な津波の映像が克明に記録された、初めての¹大災害だった。陸地に到達した当初は透明だった津波が、そのわずか5分後には真っ黒な色に変わっていた。多くの人たちが異口同音に“黒い”²と言いついてきた、巨大津波の真の姿。最新の解析や調査結果を当時の映像や証言と照らし合わせ、黒い波の脅威を初めて明らかにする。

3月9日(土) 午後9:00~9:49

『崖っぷちでもがんばっぺ ～旅館おかみと“魚の町”の社長の奮闘記～』

「津波で死んだ家族の保険金もつぎ込んで会社を再建した。だからつぶす訳にいかない」復興支援策で借りた億単位の借金。まもなく返済猶予が切れる。でも経営はなかなか上向かない…。今、崖っぷちに立たされている被災地沿岸の社長たち。震災から時間が経つほど復興需要に依存してられない被災地の現実が横たわる。苦闘しながら活路を求めてもがく社長たちの奮闘記。

3月10日(日) 午後9:00~9:55

『^{ついで}終の住みかと言うけれど… ～住宅再建の裏側で追い込まれる被災者～』

震災から8年。被災地ではほぼ全ての災害公営住宅が完成するなど「終の住みか」の確保は順調に見える。しかし、そこには時間が経ったからこそその課題が重く横たわる。度重なる転居で人々の繋がりが分断され、コミュニティを保てない集落が続出。支援の打ち切りも相次ぎ、高齢者の孤立化や孤独死の問題などが顕在化している。「終の住みか」の扉の向こう側で、人知れず困難に直面する被災者の驚くべき実態と支援の最前線をルポ。いま求められる復興のあり方を探る。

3月11日(月) 午後8:00~8:43

『拝啓 二十歳の自分へ ～“震災タイムカプセル”8年目の旅立ち～』

今年1月、岩手県・三陸沿岸の山田町でタイムカプセルが掘り起こされた。8年前、東日本大震災の直後に埋められたものだ。当時、小学校を卒業したばかりの6年生全員が「二十歳の自分へ」と題して手紙を書き、カプセルに入れた。震災直後の自身からのメッセージをどう受け止め、どのように次の一歩を踏み出すのか？二十歳の若者たちの旅立ちの時に密着する。

3月16日(土) 午後9:00~9:49

『廃炉への道 2019 核燃料デブリ 取り出しへの壁』

メルトダウンした3つの原子炉を「廃炉」にする、世界でも前例のない取り組みを記録し続けるシリーズ「廃炉への道」。事故から8年の今年、廃炉最大の“壁”である「核燃料デブリ」に、“初めて直接接触する”調査が行われる。番組では、調査を担う東京電力や技術者たちを徹底取材。デブリの重さや放射線量の分布などから、「デブリの正体は何か?」「何が取り出しの壁になっているのか?」という最大の課題に迫っていく。人類がこれまで経験したことのない、困難な闘いの現場をルポするとともに、「廃炉8年目の全貌」をみつめる。